

GIRLS, BE AMBITIOUS!

2016. 5. 7

Vol. 2

★ガールズ、ビ・アンビシャス!

“スーパーグローバルハイスクール SGH の活動がよく分かる!”

～SGH 活動の1年間を振り返るダイジェスト版～

国内・海外での
探究活動が
満載!



2016. 3. 25(金)中正記念堂(台北)での衛兵の交代式直前

- ◆2015 spring : LS の SGH プログラム始動～探究班の誕生～
- ◆2015 summer : アドバイザー等との探究活動開始の様子と大学との連携
- ◆2015 autumn : サーバント・リーダーとの出会い
 - ♪ネパール大衆歌謡歌手スングリミカ氏
 - ♪オーストリア政府公認通訳・ガイド IPP 常子氏
- ◆2015 winter～2016 spring : 第一回 SGH 中間報告(実施の記録)
台湾での探究活動への動き
- ◆2016年3月24日(木)～31日(木)台湾研修旅行(実施の記録)

英語版探究計画書 台湾研修での英語版 PPT 先輩と共に探究活動を実施
暁明女子高校との交流会の様子 パイナップルケーキのDIY...等々



2015 spring

平成 27 年 4 月、文科省より、スーパーグローバルハイスクール SGH の指定を受けた本校は、グローバルサーバントリーダーGSL の育成を目指して、LS コースの I 年生を対象に課題解決型探究活動の実践を始めました。本校の探究領域は、1 つではなく 5 つ(教育・医療福祉・食・環境・企業)あり、テーマの融合を自分たちで行った結果、以下のテーマに決定しました。SGH 一回生の記念すべき 7 つの班の誕生です。そして、アドバイザー及びご協力者に多くの知恵と勇気を頂きながら探究を進めることになりました。

班	探究領域および探究テーマ	アドバイザー及びご協力者
1	教育 『女子教育の進展のために何ができるか ～ネパールに女子校設立をめざして～』	内田教授(お茶の水女子大学元副学長) サンジブ氏(NPO 法人日本ネパール文化交流クラブ理事長) スンドリミカ氏(ネパール大衆歌謡歌手)
2	医療福祉・食 『災害時における弱者への援助体制について』	石井教授(東北大学大学院医学系研究科) 吉田教授(宮城大学看護学部) 今村教授(東北大学大学院工学系研究科) 佐々木教授(東北大学大学院工学系研究科)
3	教育・企業・食 『企業の海外進出における言語教育の問題点』	安藤氏((株)ダッシュ)
4	環境・食 『食品ロスの現状と貧困の子供たちを救うには ～つなげよう、飢餓と飽食の国々を～』	高澤教授(仙台白百合女子大学) 各コンビニエンスストア 伊東氏(日本国際飢餓対策機構)
5	医療福祉 『医療・社会福祉の視点から日本の高齢社会について考える』	白川教授(仙台白百合女子大学) 高齢者福祉施設等(仙台市内)
6	教育 『歴史認識を乗り越え、良好な関係を築くためには?』	望月教授(東洋英和女学院大学) 勝間田准教授(東北大学大学院国際文化研究科)
7	医療福祉 『バナナから見るフィリピンの経済格差』	小林氏((株)オルター・トレード・ジャパン)

この時期、探究計画書の本格的な作成と、タブレットを用いた探究活動、3 月に実施される台湾での研修旅行に備え、台湾の文化・伝統・歴史を学びつつ、以下の様な英語力を高める学習を実施しています。

NHK スペシャル『故宮 第 1 回 流転の至宝』

課題:

- ①キーワードの提示: 蒋介石/愛新覚羅溥儀/ヴィクター・ブルワー・リットン調査団
満州事変/中華民国と中華人民共和国/毛沢東
- ②グループごとに①からワードの一つを選び、時代背景等を加えながら調べる。
- ③調べた内容を英語にする。
- ④英語でプレゼンテーションするための原稿に作り替える
- ⑤英語で発表する。
- ⑥聴衆者からの講評をもらう(or 講評する)



LS コースのメンバーは学習はも

もちろん、生活時間のスキマを見つけては、探究の打ち合わせを実施。アドバイザーに連絡を取ったり、自分の調査・情報をすぐにアップして共有したり、担当教員からの連絡を確認したりと、タブレットは班の活動において、メンバー同士のきずなを深める最大の武器となっていました。(タブレットの中には…9 月から新機能が搭載され…5 教科の問題や解説の動画など学習にも活用できたよね～…フフフねえ～使っているよね～)



今までは『LS って、ただ勉強をガリガリするコース』とだけ思っていたけど、SGH の指定校となり、勉強も他のコースより頑張りながら、環境や教育などのテーマの中で様々な視点から世界を知り、自発的に行動できるコースだと感じました。正直、大変だなあという気持ちもあるけど、これがチャンスだと思い、頑張りたいです。

探究班は探究計画書を完成させながら、役割分担を行い、調べる、まとめる、課題をみつける、考察する、予測をつける…といった探究活動の基本を実践しつつ、7つの班の中でも、外部との連携・探究を一番早く実施し始めたのが4班。この頃の活動を少し紹介しましょう。

探究の様子

『食品ロスの問題と貧困者の支援～つなげよう、飢餓と飽食の国々を～』をテーマに飢餓と飽食の現状を知るところから探究をスタートさせた4班。まず食料廃棄の現状を把握するために7月12日、地元のセブンイレブン及びファミリーマートを訪問し、現状を調査。事前に作成したアンケートを渡し、回答を得る。(後に台湾でもアンケートをとることに。)

《コンビニへのアンケート》

- ・1日平均の食品廃棄量
- ・廃棄となる主な原因
- ・廃棄となった食品はどうするのか
- ・商品によって廃棄の方法は異なるのか
- ・多く廃棄される商品とその反対の食品
- ・廃棄を減らす工夫について
- ・廃棄量の経年変化について
- ・いつ、どのように廃棄しているのか

	A社	B社
①	2万円	1万円～2万円
②	賞味期限切れ、季節の変化による商品入れ替え	賞味期限2か月前、売れない、天候の影響
③	ゴミ回収者に頼んで資源ゴミとして捨てる	ゴミ回収者に頼んで全て捨てる(何ゴミかの把握はない)
④	基本的には同じだが、青果などは見た目判断するため異なることもある	すべて同じ方法
⑤	異なる →1番多いのは、売上構成比・値入利益率が高い	季節によって変化する
⑥	売上ランキング上位の商品の発注、数量、売れる時間に店舗に出す、スーパーアドバイザーの指導等	気温を読む、地域の行事を把握する、給料日前は売上が低下するのを踏まえ入荷する
⑦	商品のトレンドにより分散されてきている	基本的には変わらない
⑧	廃棄時間が決まっていて、一日6回店舗のスタッフが確認し捨てる	一日6回商品を食べる基本の2時間前に撤去。また、カップラーメン等は賞味期限の2ヶ月前に捨てる



そこから見える共通点と相違点を洗い出し、課題を構築。8月中に一般財団法人日本国際飢餓対策機構の東北事務所を訪問。飢餓の現実を知り、財団の視点を学び、誰でも参加できる『世界里親会チャイルド・サポーター』の活動報告を聞く。更に、『東日本大震災での体験は、私たちに多くの教訓と弱者への視点を忘れさせない』と

いう職員の声を、今後を受け継いでいくべき自分たちの新たな課題ととらえ、飢餓と飽食の国々をつなげるために、実際に高校生ができる活動を模索。廃棄食品として栄養価の高い『米ぬか』に着目し、『米ぬか』利用のレシピを模索。仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科の高澤まき子先生と、米ぬかの成分を分析しつつ、考案したレシピを基に試作した『がんづき』『ふりかけ』『マフィン』についてのアドバイスを頂く。この頃、担当の教諭もSGHの委員も、大いに試食に協力。9月、考案した廃棄食品の二次利用案と試作した3つの食品について、運用ルートを探る一方、飢餓を生み出す社会構造を理解。いかに多くの人々の注意を喚起させつつ、どのような活動で飢餓に苦しむ人々を救うことが出来るかを検討。一つの策としての募金に注目し、募金の運用ルートを検索しつつ、日本国際飢餓対策機構の地球型募金箱の設置を検討。運用は今後の課題。同時期、仙台白百合女子大学の高澤先生より、『米ぬか』の活用レシピが、地元のお弁当屋さんで採用できるかもしれないとの情報を得る。



そしてよいよ9月、プレゼンテーション(伝える力の育成)が始まりました。7つの班がここまでの探究活動をPPTにまとめたり、参考資料を作成したりと、制限時間の中で、いかに印象に残るプレゼンができたか、質問に的確に答えられたか、発表の論旨はまとまっていたか…。互いの発表を互いで高め合うコミュニケーションの大切さ。生徒たちは休み時間に発表の練習をしたり、PPTを作り込んだり、とても前向きに活動しました。

10月は運営指導委員の先生方を招いての報告会を実施。早稲田大学教授の藤井千春先生から、ご講評をいただきました。班で協力しながらの発表は、ちょっと前まで中学生だったとは思えないほどの成長ぶりでした。運営指導委員の諸先生方からは今後が楽しみ！との高評価が。



藤井先生のお話に皆納得！

今回はパワーポイントを使っただけの中間発表でした。パワーポイントの反省点は、字が少し小さかったことでした。教室で何とか見えるか見えないかというくらいの大きさでした。また、詳しく書きすぎて説明とまぐりくできていなかったことも反省すべき点だと思います。次の発表では伝えることが今回よりも増えます。今回の反省点をもとに、次回はより良い発表ができるようにパワーポイント等の資料作りにも力を入れたいと思います。また、今回クラスのみならずもらったアドバイスに「考察が足りない」というものがありました。そこで、それぞれの分野での考察と5班としての考察を深く考えようと話すつもりです。今まで日本国内のことについて探究してきたので、海外のことにも目を向けようと考えています。そのため、自分たちでしっかりと土台をつくる必要があります。その「土台」として考察を深められたら、これからの探求もより有意義なものになるだろうと私は考えています。これからも焦らず確実に課題探求に向けて努力しようと思います。Mさん

そしてこの時期、GSL プロジェクト(GSL を広く世界に向けて発信しよう!!)の一貫として、『知ろう 20世紀前半の東アジアとGSLとしてのガンジー』と題し、NHKの映像資料を視聴。GSLの資質について考察する時間を持ちました。

NHK『映像の世紀6 独立の旗の下に』

課題:

- ① 中国の蒋介石(国民党)や毛沢東(共産党)の成立から、第二次世界大戦前後に大陸と台湾でそれぞれ違う政治体制が作られた流れを視聴。時代と戦争が民衆に与えた影響を考察する。
- ② インドのガンジーの活動と生涯を視聴。ガンジーが目指したものは何だったのか。彼の活動が人々の心を動かし続けるのはなぜか。彼の姿を通し、GSLの在り方を考察する。

また、『企業の海外進出における言語教育の問題点』に挑む3班は、台湾茶葉の輸入・販売を行っている(株)ダツシュ様(台湾名:久順。年商5億、自社農園・工場をもち、台湾茶葉の国内輸入シェア25%を持つ企業)と探究活動を実践。『企業の問題を解決したいなら、企業の一社員となり、企業の製品を愛し、知り、研究することが大切』とご指導いただき、探究班は『白百合のお茶』の開発に取り組んでいました。10月17日には同窓会で初めての販売活動も展開できました。



企業様に宿題の報告!



入念にテイステイング♪



様々な種類のお茶を探求



評価シートを持って打ち合わせ

ラベルのデザインも生徒の自信作!!
でもさあ～寝坊して納期に遅れたよね～



完成です!

今年も皆様の
もとへ一袋
300円
です!

秋は講演会も企画。『女子教育の進展のために何ができるか～ネパールに女子校設立をめざして～』をテーマに探究活動を展開していた1班が、ネパール大衆歌謡歌手のスンダリミカさんとの懇談会を設定。10月30日、高一生全員がスンダリミカさんの『ネパール大震災チャリティーコンサートでネパールの現状を知る』に参加しました。



また、1班はこのコンサートのためのチラシ作成や募金活動も実施し、ネパールへの関心を高めてもらう活動を展開しました。募金はスンダリミカさんと相談し、ネパールの子供教育のために使用してもらうことをお願いしました。



2015. 10. 29
SGH1班
女子教育

みなさんはネパールと聞いてどんなことをイメージしますか？

ここではみなさんをネパールへとお招きします・・・

＜ネパールとは？＞ ～ネパールという国家について～



www.nepalembassyjapan.org/japanese/ より



基本情報	
面積	14.7万平方キロメートル（北海道の約1.8倍）
人口	2649万人（2011年、人口調査）
首都	カトマンズ
民族	バルバテヒンドゥー、マガル、タルー、ネワール 等
言語	ネパール語
宗教	ヒンドゥー教徒(81.3%)、仏教徒(9.0%)、 イスラム教徒(4.4%)
識字率	65.9%（2011年、国勢調査）
通貨	ネパールルピー 1ルピー＝約1.00円

外務省 ホームページ 基礎データより

＜ネパール大地震＞

2015年4月25日午前11時56分 ネパールの首都カトマンズに、マグニチュード7.8の巨大地震が襲いました。
犠牲者： 8952人（8月20日時点）
負傷した人： 2万2310人
被害を受けた郡： 31郡 *最も大きな被害を受けた郡： 14郡
経済損失： 70億6000万ドル＝2014年GDPの 36%
全壊または倒壊した家屋： 88万7356棟
大きな被害を受けた教室： 3万2145
最も大きな被害を受けた14郡で地震の影響を受けた子ども： 110万人
www.unicef.or.jp/news/2015/0223.html より

10月31日(土曜日)14時30分～16時30分 本校レジナパースホールにおいて、ネパール大衆歌謡歌手スンダリミカさんによるネパール大地震チャリティーコンサートを行います。終了後、ネパール大地震募金活動を行いますので、ご協力よろしくお願ひします。

＜スンダリミカさん＞

東京・大田区の生まれ。早大在学中コンドを始める。1993年に初めてネパールを旅行し、ネパール民謡に強く魅せられる。帰国後「スンダリミカ」を結成。出版社勤務のかたわらネパール民謡をベースとした楽曲でアマチュア歌手活動。
1999年、会社を退職しカトマンズに渡る。歌唱をミララナ、打楽器をヌチエバドール・ダンゴールに師事。日本人として初めてネパールで歌手デビュー。2003年ファーストアルバム『スンダリ』。08年セカンドアルバム『アサバディ』をリリース。04年、唯一無二の文化活動が認められ、国王よりゴルカダジャンパ勲章勲4等を受賞。07～08年、カトマンズでラジオ番組「オハヨーミーナ」のプロデュース&パーソナリティーを務める。
カトマンズを本拠地とするネパール大衆歌謡歌手として活動中。毎秋日本視察ツアーを行っている。歌手公演の他、文化講演、新聞連載執筆、楽器指導講座、学校・図書館や高齢者施設・病院等で歌つきの講演、ピンクパティ活動、チャリティーライブなど幅広く活動中。2011年ネパール観光年の活動大使も務めた。
「スンダリ」とはネパール語で美しいの意。
スンダリミカさんはネパールにおいて、様々な支援活動を行っていらっしゃいます。下記のURLでは、それらの活動が掲載されています。是非ご覧ください。
*公式Facebook: www.facebook.com/sundari1016
*公式ブログ: ameblo.jp/sundarimica
*公式サイドブログ通信: www.mars.dti.ne.jp/~mica-har/purnima/
*支援活動報告P: sundarimica-nepalsupport.jimdo.com/

更に11月7日、オーストリア政府公認通訳・ガイド IPP 常子(イップつねこ)さんによる講演会が開催されました。演題は『女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・ファン・ズットナーの足跡』です。お話の上手なイップさん。バイタリティー溢れる、楽しくてためになる、サーバントリーダーを知る機会となりました。

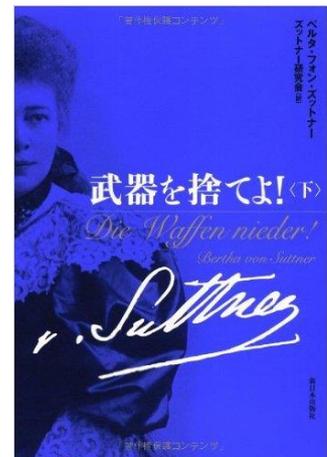
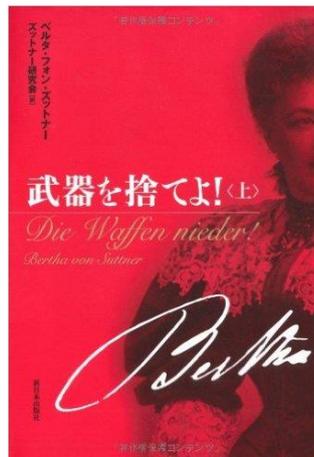


今日は IPP 常子先生の講演会を通して、ウィーンの世界や有名なものについて、そしてベルタ・フォン・ズットナーという女性の人生についてなど、色々なお話を聞くことができました。先生はただ話すだけではなく、私たちが楽しんでお話を聞けるように話してくださいました。そんな中で私はベルタ・フォン・ズットナーの勇氣に感動しました。ベルタが戦争の負傷者を見て、戦争について深く考えたときに、彼女が作家として出版した本があるそうです。その本は最初のうちはどの本屋でも買ってくれなかったというのです。当時は、戦争へ行く軍人として選ばれるのは名誉なことだという考え方が一般的だったので、戦争によって家に残された家族はどのような気持ちだろうか、というベルタの問いかけは、人々に素直に受け入れられなかったということです。また仕事を持つ女性の割合が少ない時代に、更に作家という男性上位と考えられていた職業の中で女性として作家活動することが、出版社から認められなかったからだと思います。しかし、彼女の強い思いが伝わり、本はなんとか出版されて人気になっていったそうです。私は、新しい真実や、今までとは異なる何かに気が付いたとき、それを他人に伝えるということはとても勇氣がいることだと思います。しかし、ベルタのようにそれに対する思いが強ければ、共感し、支えてくれる人々は必ずいるのだと思います。私も同じ女性として、ベルタのような女性の強さと勇氣をもてるようになりたいです。(Kさん)

ベルタは、ノーベルのもとで働き、出張先の米国ではカーネギーとも知り合い、彼らの支援と協力のもと、《小説 武器を捨てよ》を執筆。これがベストセラーとなり、1905年、女性初のノーベル平和賞の受賞につながる。

図書館にもこの本はありますので、是非、手に取って読んでみましょう！

この時代の、女性の社会的な地位についても理解が深まりますよ。



GSL プロジェクト

仙台白百合学園の SGH プログラムの中に、GSL プロジェクトがあります。このプロジェクトは、『本校が選定したグローバル・サーバント・リーダーを広く一般の人々へ伝える報告書を作成しよう！』という活動です。活動班は探究班とは異なるメンバーで構成されており、日本語で機関紙を作成した後、多言語でも作成。特に小学生や中学生が多言語を学ぶ際の学習教材を目指します。一人目は、本校とのなじみも深いフィリピンの外科医、シスター・エヴァです。二人目は、台湾で活躍した日本人(ダム設計技師)八田與一です。←台湾には彼を讃えるお祭りや銅像も！

GIRLS, BE AMBITIOUS!

仙台白百合学園高等学校 SGH

<http://sendaishirayuri.net/>

H27.9.12 発行
GSL20 プロジェクト
Vol.2

PRELUDE

GSL プロジェクト第 2 回目の今回は、八田與一をご紹介します。台湾の地に革命を起こした彼は「嘉南大圳の父」と呼ばれています。日本が台湾を統治して15年が経った頃、彼のダム開発への歩みがスタートしました。自分の幸福ではなく弱者の立場を尊重して全うした彼の人生は、誰にも真似することができないほど、愛と優しさに包まれています。

PROFILE

1886年(明治19年) 石川県金沢市出身
1910年(明治43年) 東京帝国大学(現東京大学)土木工学科を卒業
同年8月 台湾総督府の技師として、台湾に渡る
1920年(大正9年) 烏山頭ダム着工
1930年(昭和5年) 烏山頭ダム工完了 水の貯蓄が始まる
1942年(昭和17年) 5月5日 広島県宇品港から出港
5月8日 アメリカの魚雷攻撃により死去



八田與一の銅像(台湾)

広大な荒地から豊かな穀倉地帯へ

雨や日照りの自然災害を、大きく受けてきた台湾の大平原。様々な工夫が凝らされた八田の大規模なダム工事は、荒れた平野を、豊饒な穀倉地帯へと大変革。多くの人の命を救いました。今でもダム工事に受け継がれる、八田の技術。代表的なものを紹介します。

① セスハイロッキングフィル工法(通気堤堰工法)の採用

コンクリートの土台を中心部にだけ用いて大量の土砂をその上に盛った後、水力を利用して粘土や細かい土砂を下に落ち着かせ、土の層理を作る工法。地震の多い台湾では最善の方法として採り入れられた。(現在のダム工事の際も、お手本とされる工法の一つです。)

② 大型土木機械の使用

→工事を早く進めるために、当時あまり使われていなかったスチームショベルやエアダンプカーなど土木機械を47種類取り入れた。

③ 三年輪作給水法

→15万 ha の広大な土地を5万 ha ずつに区画し農作物を一年ごとに順次栽培していくことで、地域全体に水を行き届かせた。5万 ha ずつに区画し農作物を一年ごとに順次栽培していくことで、地域全体に水を行き届かせた。

これらの工夫があって完成されたダムは、当時の台湾の人々にとって衝撃的なものでした。ダムの完成前までは嘉南平原(15万 ha)に水を引くには約16000 km(地球半分)もの輸-排水路が必要で、物理的には無理だとされていました。ところが、八田の技術(土地の勾配だけを利用して、ダムからすべての畑に水を届けられる)は、そこで苦しむ80万人の農民の生活を3年で一変させたのです。

八田與一の人間性

八田與一はダム工事の作業員やその家族に対しても、愛を持って接していました。ダムを造る工程において大爆発が起こった際に数百人が亡くなったときには、「あなたの家族を殺したは、この私です」と言って頭を下げて回ったそうです。そして、亡くなった作業員の氏名が日本人と台湾人の区別なく、すべて刻まれている石碑を作りました。遺族は誰も彼を責めようとはしませんでした。更にその他にも、ダムを造っている作業員のために、作業員とその家族が暮らすことが出来る住宅団地を造成しました。彼の強さと優しさとは違わぬ、多くの人々に他者愛することの大切さを伝え、記憶させていったのです。

八田與一銅像の歴史

烏山頭ダムの工事に携わった人々が工事の記念に、1931年7月に烏山頭ダムの起点となった丘の上に八田の銅像をつくりました。しかし戦争が激化し、金属が不足してくると八田の銅像が持ち出され、姿を消しました。1942年、次のダム仕事に向かう彼は、乗船していた大洋丸の沈没によりこの世を去ります。偉大な業績を残した彼の死は、多くの人々の悲しみを深めました。今でも嘉南大圳の生みの親であるが、彼らは決して忘れてはいないのです。また彼の妻は、八田の死から3年後の9月1日、八田が生涯をかけて造った烏山頭ダムの放水口に身を投げて亡くなりました。嘉南の人々は二人の死を惜み、日本式のお墓を作りました。その頃、蘭市に銅像が売り出されていることを知った嘉南農田水利協会は、それを買い戻し、元の場所に、日本式のお墓のそばに設置しました。

今日、八田とその妻は青春を輝けて完成させた美しい珊瑚潭を静かに見下ろしています。

CONCLUSION

八田與一は、自分の幸福よりも弱者の幸福を第一に考え行動し、後世に名を残しました。私たちに、彼の銅像を普労してまでも造った嘉南の人々の気持ちや手取り取るよう分りました。八田の優しさ、意志の強さ、台湾の大平原を豊かな穀倉地帯にしたいという夢を実現した彼に、心から感謝したのだと思います。同じ日本人として本当に誇りに思いましたし、同時に使命感を感じました。なぜなら、八田の清らかな精神を私たちが引き継ぐべきと考えたからです。

ある有名な漢文の節にこうあります。「紅海所以能為百谷王者、以其善下之。」これは、人の上に立つ立場の人は、人の下に立っていないなければならないという意味です。私たちが、この言葉がまさしく彼のことを象徴しているように思いました。そして、彼もまたグローバル・サーバント・リーダーです。彼の行いをまねることは決して容易なことではなく、想像以上に難しいと思います。現実的にダムを造ったり、多くの人のために生涯をさげるといった大きな行動を起こすことは難しいかもしれませんが、しかし、何より弱者の立場を第一に考えることは可能です。例えばバスや電車などの公共の場で、お年寄りや子供連れの方に座を譲ることがあるように、行動を起こすことができる機会が身近にあふれています。一人ひとりが勇氣ある小さな行動を実践し、それが積み重なってこそ、真のグローバル・サーバント・リーダーへの道は開かれるのです。

編集:石井美土里・遠藤夏貴・及川若菜

11 月末、海外探究先である台湾について『台湾の歴史を学ぶ』と題し、19 世紀後半から 21 世紀にかけての中国大陆と台湾の近現代史を HR で取り上げました。特に国民党や共産党の抗争、国民党が台湾に移ってからの台湾の世界との関わり方や、政権の変遷を中心に学習。今やアジアの窓口となりつつある台湾の過去を、史実と共に理解し、現在の探究活動との結びつきを深める手立てとしました。そんな中、『災害時における弱者への援助体制について』をテーマに活動してきた 2 班の、台湾での探究ポイントは以下のようにになりました。

東日本大震災の実体験と、医療従事者の懸命な医療行為を身近に感じた経験から、弱者とされる人々への災害時の社会の関わり方を探求。東北大学医学部医学系研究科の石井教授や、宮城大学看護学部の吉田教授のアドバイスを受け、高校生視点の「弱者対象の防災パンフレット」の編集を試みる。同じ島国であり、台風や地震での甚大な被害を被った経験のある台湾での防災パンフレットを読み解き、広い視野と新たなネットワークを形成。次のステップに活かす予定。

<p>これまでの探究の経緯</p>	<p>東日本大震災の実体験と、医療従事者の懸命な医療行為を身近に感じた経験から、弱者とされる人々への災害時の社会の関わり方を探求。東北大学医学部医学系研究科の石井教授や、宮城大学看護学部の吉田教授のアドバイスを受け、高校生視点の「弱者対象の防災パンフレット」の編集を試みる。同じ島国であり、台風や地震での甚大な被害を被った経験のある台湾での防災パンフレットを読み解き、広い視野と新たなネットワークを形成。次のステップに活かす予定。</p>
<p>探究方法を 3 系統に整理</p>	<p>①東日本大震災の、難病患者への対応の研究。 ②看護系フォーラムへの参加で学んだ災害時の広い意味での看護や協力体制・支援の在り方を、高校生の視点で調査探求。未来につなぐ。 ③災害防災センターまたは研究所を訪問し、さらなる視点を増やす。</p>
<p>台北の活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合病院の社会福祉室等を訪問し、災害時医療の現状を探求。職員にインタビューする。 台北 101 災害センターを訪問し、防災のシステムや連携、弱者への支援体制等を調査。
<p>台中の活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 921 地震博物館を訪問し、震災の状況を東日本大震災時と対比しながら探究。 台湾版の災害時パンフレットを読み解く。 災害時の自宅治療患者に焦点を定めて、台湾の災害時の行動計画の情報収集及び調査・分析を行う。 本校の先輩たちと探究を通じて語り合いながら、台湾の地で学ぶ意義と今後の展望をうかがい、グローバルな視野を育むマインドを調査・探究。更に、直近で起きた台湾南部の地震についての状況やメディアの報道の内容について詳しく調査。支援の在り方等について情報を得る。
<p>その後への見通し</p>	<div data-bbox="331 1167 794 1451" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> 現在探究のアドバイスをお願いしている東北大学の災害科学国際研究所の今村文彦教授のご協力のもと、防災パンフレットの完成における打ち合わせを進行中。台湾の防災パンフレットから得られる視点を参考にしながら、同じ島国であり、自然災害の多い日本で役立つ、防災パンフレットを作成する。 今回の探究でつながった多くの方々に成果物としてのパンフレットを発信し、弱い立場の人々を支えようという視点を持つ人々を増やし、互いの国の支援の在り方を向上させる。

各班、国内での探究活動から台湾での探究活動へとつなげるべく、自分たち自身でよく考え、アドバイザーの先生からご助言をいただいで活動を継続。更に 1 月～2 月に、台湾で最も古く権威ある台中の私立東海大学(台中での探究活動のベースとなる大学)の教授陣に、探究の目的や探究内容の骨子、現在自分たちで導き出した仮説等を英語で伝えるために、英語版の PPT 等を作成。台湾版探究計画書を日本語版と英語版を作成したことで、海外での探究活動にブレがなくなり、専門用語も含めた英語での表現力が増し始めました。また、台湾では自分たちの学校を紹介することや SGH の活動を紹介する交流会もあるため、英語版の学校紹介発表資料や SGH 活動の紹介資料も忙しい合間を縫って作成。英語によるプレゼンテーションの準備も自分たちで自主的に行っていました。

【探究計画書の重要性】

次ページに示す探究計画書は『歴史認識を乗り越え、良好な関係を築くためには?』をテーマに探究活動を実践してきた 6 班のもので、6 班は、探究領域を教育に定め、近年よくメディアで取り上げられる歴史認識の違いから日本と近隣諸国の関係性に着目。日本と近隣諸国との関係が悪化することのないように教育を通して解決策を導き出すのが目的です。この班の探究は、アドバイザーを自分たちで探し、文献の内容把握や整理、現在に至るまでの歴史と外交の様子、戦争と政府間の協定等を洗い出すところからスタート。その上で解決策を探るための考察をするという過程をたどりました。

≪ 探究計画書 ≫

提出日 ①2015年5月26日 6月1日戻し 再提出 ②2015年6月8日

班番号: 27LS06 班長: Aさん 副班長: Mさん

班員: Aさん Sさん

1. 探究領域と探究テーマ	教員使用欄
領域: 教育	
テーマ: 歴史認識を乗り越え、良好な関係を築くためには ～教育格差の改善～	
2. キーワード(3個程度:上記テーマを探究する上で、ポイントとなるワードを記入)	
韓国・中国・台湾との国交、親日の背景、貧困層の教育	
3. 探究の動機:自分たちがその課題に気付いた経緯を記入	
教科書の表記の改訂に関するニュースを目にすることがある。そこから日本の歴史認識が国交を意識したものになっていること。また他国もそれぞれの歴史認識を持っていることが分かった。なので、歴史認識の違いを知っていくことが良好な関係を築くカギとなっているのではないかと考えた。 そして中国では沿岸部と内陸部で経済格差および教育格差が激しくなっている。歴史認識を持つきっかけとなる教育の実態を知ることも同じく大切だと考えた。	
4. 探究の目的:探究で何を明らかにしたいのか。	
国際化が進んでいく中で、日本は特に近隣の国との友好な関係を築くことが重要だ。しかし、歴史認識の違い及びそこから生じる領土問題等、様々な意見の違いが起きているために外交に支障を来しているのも事実である。 その原因は国によって異なる歴史教育により、偏った世論が形成されることにあると考えた。また、貧困層の教育問題によって能力のある人材が育成されず、同じような考えを持つともとも身分の高い指導者ばかり生まれるということも考えられる。 これらを解明し、今後の近隣諸国との関係を良好にするための改善点を突き止め提示する。	

5. 探究のデザイン:誰が何をどう調べるのか。スケジュールを記載。 アドバイザーへの質問について	
5月:探究計画書の完成 A…台湾の日本に対する歴史認識。親日家の多い理由。 N…台湾との良好な関係(国交・文化・政策) H…日本の戦争に対する中国・韓国の歴史認識・国交 M…中国の教育格差。(歴史)教育の実態と影響 6月中:上記内容をまとめ、事実の確認と問題点の洗い出し。 ・問題点の報告 ・アドバイザーと交流及び探究活動と継続 7月:探究訪問先を探る。訪問準備。 8月22日(土):国内でのフィールドワーク(研究室・企業等訪問) 9月:訪問御礼と訪問活動のまとめ 9月12日(土)クラス内中間発表 9月～11月:第一次課題解決策の模索 11月28日(土):SGH中間報告会「第一次課題解決策の提示・発表」 アドバイザーへの質問 中国の貧困層へはどのような支援がされているのか。反日家が多い印象の中国や韓国が日本に対して好印象を持っている点はあるのか。	
6. データの分析:調査対象および方法と分析	
・各国の歴史認識の分析…各国の歴史教育や歴史認識から考えて、国交の正常化に必要な事柄を把握する。 ・貧困、教育格差の原因…中国の貧困の原因を詳しく知り、教育格差と関係する経済格差について理解し、弱者の視点を考えられるようになる	
7. その他:探究に必要と考えられること	
貧困者の視点、そして各国の視点というように視野を広く持ち歴史的背景からの国の民族性を理解して考察する。また、何故良好な関係を築くことができないのか原因を追究し、良好な関係を築くことでのメリット・デメリットを理解し研究する。 キャッチフレーズ「歴史を解き明かせ！広げようグローバルな視点」 ・連絡を取っているアドバイザー:東洋英和女学院大学の望月敏弘教授	

≪ 台湾探求計画書英語版の一部 ≫

≪ The Research Plan for the Study Tour to Taiwan ≫

Submit ① Nov. 24, 2013 / Submit ② Dec. 24, 2013 / Submit ③ Jan. 19, 2013 / Submit ④ Jan. 22, 2013

Team Number: 27LS06 Team Leader: Sub-leader:

Other Team Members:

1. Area of Research & Research Theme	Comments from Teachers
Area: Education Theme: How do we get over the memories of the war history and establish good relationships?	
2. Keywords for the Research	
diplomatic relations between Japan, Korea, China, and Taiwan / war / good relationships / back ground of pro-Japanese	
3. Purpose of the Research	
We will compare Taiwan to China and Korea with questionnaires and interaction. We want to get hints how Japan can build good relationships with China, Korea, and Taiwan. Finally we will show a solution for and announce it in public.	
4. How the Original Theme Relates to Taiwan	
We think it is important for Japanese government to build a good relationship with countries near Japan. But the difference on understanding of history causes diplomatic problems. So we search how we reestablish relationships with these countries. We think that we can get hints how to build a good relationship by investigating the reason why Taiwan has become a Japanophile country.	
5. What We Can Do for the Study Tour to Taiwan	
Building a good diplomatic relationship ～Learn about the secret of pro-Japanese～	

6. Prospect of Our Research for Study Tour to Taiwan	
From the theme above, we will interchange opinions with people of pro-Japanese in Taiwan, and send out questionnaires for each generation to listen to hear various local people's voices which can not be gotten by Japanese media. We will compare these results and differences between China and Korea, and then we will get hints to establish good relations with them.	
7. Concrete Plans for Our Research on the Study Tour to Taiwan:	
Purposes of the Activities: ①What We Can Learn ②Relationships to the Original Theme	
・To interchange opinions with various local people 1. If we talk with various local people, we can understand various voices of people who live in each country. 2. If we interchange opinions with people who have different cultural values we can deepen the global society. In the addition, the experience will help us to understand difference of cultures between China, South Korea, and Taiwan.	
・To send out a questionnaire 1. If we send out a questionnaire which has not seen on the Internet or in books, we can get necessary information which is especially important for us. 2. We will compare the results of our questionnaire with opinion poll at Japan and China. Then, we will find difference of pro-Japanese country and anti-Japanese country to find the solution to make a good relationship from a country to a country.	
・To watch Taiwan of the past and now 1. We will go to museums, the memorial museum of history, the bazar, and so on, to know the various aspects of Taiwan. 2. We will find the way, which can be found only by us, to make good relationship. Now, many mass media make images of each country. For example, Japanese media makes images of Taiwan and others. So, we will use real informations which will be gotten from Taiwan to find solution. Seeing the real situation of Taiwan, we can find out the solution which would be unique and different from others.	

探究計画書の作成により、目的や探究デザインの焦点がハッキリし、更に、調査方法や分析についても意識が向かうため、計画に厚みが増します。後期にはこれまでの探究で得た情報と考察の過程を、発表を通して整理する機会が増えることから、台湾研修に向けた探究計画書になると、台湾での探究活動を前提により的が絞られ、次につなげるための計画も盛り込まれています。また、台湾での英語でのプレゼンに備え、英語で探究計画書を作成したことで、事前に会話力も高まり、探究のための視点がより明確になりました。

2月6日(土)《第一回 SGH 中間報告会》を開催。北は北海道、南は鳥取まで、全国の SGH 校や教育関係者が本校の SGH についての報告会に参加。生徒達も受付や誘導、ホールでの発表などを行いました。

【プログラム】

- ①基調講演：仙台白百合女子大 牛渡 淳 学長
- ②本校の GSL プログラム
 - ・基本構想(本校 SGH 委員)
 - ・生徒発表(3班・4班)
- ③パネルディスカッション
- ④分科会



受付の様子



ホールまでの誘導



3 班の発表の様子



4 班の発表の様子

パネルディスカッション テーマ『グローバル人材に必要な資質とは…』

パネラー：

- ・牛渡淳学長（仙台白百合女子大学学長）
- ・大村昌枝先生（宮城県国際化協会次長兼企画事業課長）
- ・藤井千春先生（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）
- ・中野裕弓先生（元世界銀行本部人事カウンセラー）



分科会

- 1：本校の SGH プログラムについて(講師：鉢呂智子(本校 SGH 運営委員長))
- 2：SGH が育成を目指すグローバル人材～混迷するグローバル社会と、それを担う次世代に求められる力～(講師：大村昌枝先生)
- 3：人々が有機的につながる社会～SGH プログラムに期待すること～(講師：中野裕弓先生)
- 4：中等教育におけるグローバル人材の育て方(講師：藤井千春先生)

仙台白百合学園中学・高等学校 第1回SGH中間報告会 アンケート						
所属	お名前					
* 今後の参考にしますので、忌憚のないご意見・感想をお願いします						
	良い	←-----→			悪い	
1 基調講演	A	B	C	D	E	*該当する記号に○
2 本校のGSLプログラム	A	B	C	D	E	
3 パネルディスカッション	A	B	C	D	E	
4 登壇交流懇親会	A	B	C	D	E	
5 分科会 番号()	A	B	C	D	E	
6 開催時期	A	B	C	D	E	
ご意見・ご感想						
○本日はご参加いただき、ありがとうございました。(SGH委員会) H28.2.6						



⇨参加者アンケートから、本校の GSL プログラムへの関心の高さと、生徒の発表内容や発表の様子に高い評価を得ることができました。

3月になると、目前に控えた台湾研修への最後の準備として、他県のSGH校との交流会を実施。台湾はおもてなしの国でもあるため、以下の目標を設定し、企画・運営のすべてを自分たちで行いました。

- 目標：・SGH校との交流を通し、互いの探究について学び合い、幅広い知見を養う。
 ・互いの発表・発言を通し、『理解し合い、互いを高めるコミュニケーション力』を養う。
 ・おもてなしの心、気遣い、心配りを学び、今後の訪問や交流に役立てる。

3月11日(水) 国立大学法人神戸大学附属中等教育学校の東北交流メンバー(8名)が来校。互いの学校紹介の後、SGHの両校の発表が行われました。

国立大学法人神戸大学附属中等教育学校 SGH 発表	仙台白百合学園高等学校 SGH 発表
①被災地視察による学習効果の検討	①災害時における弱者への支援体制について(2班)
②神戸市活性化計画	②高齢社会における医療福祉(5班)
③震災遺構について～震災遺構は震災を思い出すためにある、という視点から～	③バナナから見るフィリピンの経済格差(7班)

阪神淡路大震災から21年、東日本大震災から5年の節目に、被災地にあるSGH校が交流できたことは、大変意義深いと感じました。特に、これからの両校の探究活動において、互いに連携することで、重要かつ新たな視点が形成できるという可能性も育まれました。

今後とも、互いの探究活動の進捗状況に合わせて、合同発表会などを企画したいと考えています。



3月23日(水)関西創価高等学校の『GLIT 東北フィールドワーク』のメンバー(20名)と東北大学ボランティア団体『SCLAM』の活動支援センターの藤室玲治特任准教授が来校。互いの学校紹介の後、SGHの両校の発表が行われ、昼食懇談会の中でも、お互いの探究活動の様子などを分かち合いました。



関西創価高等学校 SGH 発表	仙台白百合学園高等学校 SGH 発表
①核兵器の問題を考える	①企業の海外進出における言語教育の問題点(3班)
②教育を受けられない子どもたちについて	②つなげよう飢餓と飽食の国々を(4班)
③災害からの復興について	③歴史認識を乗り越え良好な関係を築くには(6班)

交流会の企画運営として、内容、タイムテーブル、レクリエーションの司会進行と、タイムキーパーを担当。限られた時間の中で、お互いの発表や交流を通して充実した時間になるよう、皆で協力しながら実施し無事終了することができました。後日、お礼のメールが届いた時、本当に嬉しく、達成感で一杯になりました。『おもてなしの心』で会を運営することをこれからも大切にしたいと思います。Dさん

『相手にこの様に伝えたい!』その想いがとても良く伝わる関西創価さんの積極的な発表と臨機応変な司会。一期一会の交流会の中で、関西創価さんから学んだ『人との繋がりを大切にする』姿勢を、今後の活動の中でしっかりと活かしたいと思いました。Sさん

《関西創価高等学校の参加生徒の感想》

私達の発表に対し、仙台白百合の皆さんが積極的に質問して下さい、自分の内容をもっと深めていかなければ相手に伝えていけないと痛感しました。互いにSGH校の生徒として、地球的課題の探究を続けていきたいと思っています。

今回の発表では、一年間の概要や今後の活動内容を、初見の人にも分かるように簡潔に伝える必要があり、それは私達にとって、探究活動における課題や、学んだことを整理して具体化する良いきっかけとなった。ここまでの間、何度も発表を経験していたことが、この本番で成果して発揮できたと感じている。交流会を通じ、自分の知識を深めることが出来たと共に、今まで気づかなかった視点に出会えたことは、今後の活動にきっと新たな展開を生むことになるだろう。とても有意義な時間を過ごせたと感じている。Aさん

そして今回、生徒たちの発案で、交流会についてのアンケートを実施することになりました。結果は以下の通り。このデータを受けて、今後の交流会の在り方や『おもてなしの心』の実践についての探究も始まったようです。来年は後輩たちも交えながら、白百合らしい交流会を企画して下さいね！先輩！

アンケートにご協力をお願いします

これからの活動をよりよいものにするためにご協力をお願いします！

Q: 今回の交流会のプログラム内容はどうでしたか？

1. 大変よい 2. ふつう 3. 改善すべき 4. その他

3と答えた方に質問です。どこを改善すべきですか？

4と答えた方に質問です。具体的に思ったことを書いて下さい。

Q: 今回の交流会のレクリエーションはどうでしたか？

1. 大変よい 2. ふつう 3. 改善すべき 4. その他

3と答えた方に質問です。どこを改善すべきですか？

4と答えた方に質問です。具体的に思ったことを書いて下さい。

Q: またこのような解をもちたいですか？

1. はい 2. いいえ

Q: 最後に交流会について感想をひとことお願いします。

(〇)/ご協力ありがとうございました！(〇)/

《アンケート集計》

- ・ 今回の内容について(全体)
大変良い 78.9%、ふつう 15.8%、改善すべき 5.3%
- ・ レクリエーションについて
大変良い 89.5%、記入無し 10.5%
- ・ また交流会をもちたいか
はい 100%

【意見】

- ・ 話す時間ももっと欲しかった。
- ・ 最初から対面型でもいいのでは。
- ・ 質問が的確であった。
- ・ 活動が実践的で良かった。
- ・ ランチが好評で交流会の態度もいい。
- ・ もう少しレクリエーションがしたい。



台湾研修(3/24(木)~3/31(木))

いよいよ今年度の探究活動の締めくくりは台湾研修です。以下の行程表にある通り、台湾での個人研究や班別探究活動(台北・台中)も盛り込まれています。班によっては事前に会う予定をしていた大学の先生方や研究室を訪問。特に台中では先輩たちや大学の先生方と共に、みっちり探究活動を実践しました。

3/24 (木)	午後	17:30 仙台空港集合	19:55 仙台空港発
		23:05 台北桃園空港着	→ (バス)台北市内
		24:30 六福客棧(レオフォーホテル)泊	

ハプニングは突然に…予定では 19:55 には仙台空港をサヨウナラ~だったのが、突然の機体整備アナウンス…。仙台空港を発つのは2時間以上後になったのです。しかし、この後の台湾研修での何かを予感させるメンバーの元気っぷり！急遽用意したホットドックや焼きおにぎりを、実に美味しそうにパクついていました。そして元気に出発したのです。



3/25 (金)	終日： 台北市内	9:30 朝食後ホテル出発、10:00 総督府、国立台湾博物館、中正紀念堂視察
		12:30 『三徳大飯店』にて北京料理の昼食
		14:00 忠烈祠にて衛兵の交代式見学 15:00 人気スポット永康街の散策
		16:30 『故宮晶華』にて中華の夕食後、片倉佳史先生の講演会
		19:30 レオフォーホテル泊



←雨の総督府。そう、この時期台北は雨季。寒波も到来中。しかし、さすがはLS生。日本と台湾の歴史や政治について、大いに学び、ガイドさんを質問攻めにしていました。



←中正紀念堂では蒋介石と孫文について探究。台湾の歴史における二人の関係性や蒋介石の執務室などを興味深く見学しました。

片倉佳史先生(早稲田大学卒、台湾在住の作家。『旅の指さし会話帳・台湾』等の著書多数)講演会:先生のお話を聞いて、台湾という国について改めて考える事が出来たように思う。歴史にふれつつ、何故親日なのか、多くのなぞを先生ならではの視点で伝えてくれた。『台湾での活動をまとめる台湾ノートを作るといいですよ』というアドバイスの通り、帰国後、台湾活動ノートを作ってみた。すると、この学びをSGHにどう活かすことができるのか、これから自分は何をすべきかが見えてきたように思う。ご自身がサーバントリーダーでもある片倉先生に、私たちがサーバントリーダーとして何をすべきか、何ができるのか…深く考えさせる良い機会を与えて下さった貴重な時間であった。Sさん



3/26 (土)	終日：	8：30 朝食後ホテル出発、9：00 世界貿易会館の『見本市』にて探究活動
	台北市内	12：00 台北 101 『鼎泰豊』にて小龍包の昼食、後、B&S 班別探究活動 16：45 国父記念館立德 CAFÉ レストラン集合、後、夕食 18：30 士林夜市散策 (B&S 解散) 20：00 レオフーホテルへ



3月の世界貿易会館では、『台湾春季旅行展&台北飯店の飲食・美食&台湾お土産特別展』を『見本市』という名称で開催。そしてここでのミッションは、『見本市で出ている商品等について数社を比較対照し、ベストな商品を提示する』でした。帰国後のレポートではかなりの力作が提出され、『校長賞』が誰の手に渡るか…とても楽しみ。(レポートでは、言葉の壁に悪戦苦闘した様子や、店員さんと仲良くツーショットの写真が載ったりと、各自が制限時間内にしっかり探究した様子が記されていました。)



ミシュラン一つ星の名店『鼎泰豊』での昼食。店内のガラス張りの厨房では、小龍包の作られている行程も見ることができました。肝心の小龍包の感想ですが…本場のものを初めて食べた私にとっては、思っていたよりも熱くなく、材料の味が良く出ている肉汁が何とも美味しかったです。また、小さい見た目のわりにはボリュームがあり、種類が豊富だったので大変満足した昼食となりました。仙台駅ビルの商業施設 S-PAL に『鼎泰豊』の支店が出たので、今度家族と食べに行きたいです。Hさん

B&S では日本語学科で学ぶ大学生たちと共に、『班別研修 in 台北』を実施。各班それぞれが日本で立てた計画に従って大学や研究室、資料館等を訪問したり、アンケート調査を実施したりしました。

1班(女子教育班)：大同大学を訪問し、鄭智恵先生と打ち合わせ通りに、学生への聞き取り調査を実施。女子校設立のための教育方針を考察するにあたって、『世界で活躍する人材に成長したいか』という質問に対し、学生の1人が『自分の仕事や責務をしっかりと果たしたい』と答えた。世界で活躍する事だけがすべてではない事を知り、改めて考えさせられた。その上で、自分の仕事をしっかりと果たすということももちろん組み込み、世界規模で活躍することが出来るような教育コンテンツを考察したいと思う。Wさん



3/27 (日)	午前：	8：30 朝食後ホテル出発 (チェックアウト) 9：00 『故宮博物院』 個人研修
	台北市内	11：30 『唐宮レストラン』にてモンゴリアン BBQ の昼食
	バス移動	13：00 パイナップルケーキのDIY
	午後：	14：30 台中へバス移動 17：00 東海大学 OB 会館着
	台中市内	18：00 夕食 東海大学



世界四大博物館の一つである『故宮博物院』でのミッションは『自分の出席番号で指定された色を持つお宝を2品選出し紹介せよ』でした。画像の撮影は禁止、あくまでもフリーハンドによる作品の紹介だったので、絵心が問われたミッションでした。LS生の絵心…想像して下さいね！



そして彼女たちの食の快進撃も紹介しましょう。研修旅行中、中華のフルコースでいつもお腹一杯の彼女たち。何を食べても『美味しい～！』の連発は、『旅行を成功させる一番のポイント!!』です。この日の昼食は、趣向を変えて、様々な肉と野菜の鍋とチャンプル。他のお客様の長蛇の列に臆することなく、班員で協力し合い、メインからデザートまで手際よくテーブルに次々配置。『鍋の具材が煮えたよ！』と声を掛けたら…皆一斉に器に盛り食べ始めます。勢いがあるって、満面の笑顔でパクパク…。女子高生の概念？を一気に覆す彼女たち。(帰りの飛行機は絶対重いつて…。)

そんな素敵な彼女たちが喜んだのがパイナップルケーキのDIYです。

パイナップルケーキがどのようなお菓子か知らなかった私にとって、このケーキを作ることや、食べる事ができて、楽しく、そして嬉しいひと時を過ごす事ができました。このケーキはパイナップルのあんを生地で包んでまるめて、台湾の国土の形や国花やお金の形の金型に入れ、焼いて完成です。みなそれぞれの個性が出たケーキ作りになり、帰りのバスの中では焼き立てを食べていた人もいます。この体験を通してパイナップルケーキのファンが確実に増えたと思います。Mさん



そして午後は次の目的地である台中の東海大学に向かってバス移動。東海大学は1955年に創設された台湾第一号の私立総合大学。博士学位を取得している専任教員は78%。自然に囲まれたキャンパスが魅力的です。文学や商学の分野が特に有名で、現在はグリーンテクノロジー、創意芸術、国際交流等に力を入れている大学です。この大学には4年生に1名、3年生に2名、1年生に1名と本校の先輩たちが進学しています。



東海大学内の夕食会場では、台北や台中の大学に進学した先輩たちが勢ぞろい。楽しい夕食会になりました。先輩たちは探究活動のために、才能(カメラマン・頭脳・体力…etc)豊かな地元の友人たちも招いてチームを形成。中にはスイーツ天才男子!?(スイーツを作るのが好き+高い学力により飛び級で大学生になった男子)もいました。皆さん親切で、各班の探究活動のために尽力して下さいました。

3/28 (月)	終日： 台中市内	7：10 学生食堂にて朝食	9：10 英語で中国語会話を学ぶ
		8：00 開会式プレゼンテーション(英語)	12：10 昼食弁当+お茶
		11：10～12：00 大学構内にて施設見学、	18：00 各班で夕食
		13：30～17：30 暁明女子高との探究交流、	20：00～21：00 大学内で班別打合せ・データ分析 東海大学OB 会館泊



せっかくの台湾ですから、何と言っても中国語を学ぶ授業を全員で受講しました。陳中漢先生の分かりやすい英語による講義で、生徒たちの中国語力はみるみる上達?あれれ、『太貴了(タイグイラオ)』ばかり覚えていたのは誰かな?夜市で使う予定なんだね(^)/

東海大学で、中国語を英語で学ぶ授業を受けました。中国語は英語以上に発音が難しい言語であると感じました。日本語では、一つの漢字でいくつかの読み方がありますが、中国語では、一つの漢字で一つの読みしかないものの、発音は4通りあり、それを読み分けるのが難しかったです。また、授業では日常で使える中国語会話を学んだり、李白の『静夜思』を暗記し、発表しました。中国語は発音が難しいですが、文法は英語と似ており、中国語は英語で学んだ方が分かりやすいということを実感できました。今回、中国語を学んでみて、英語の大切さや新しい言語に挑戦する意義を理解することができたと思います。Yさん



台中のカトリックの女子校である暁明女子高校での交流会は、イースターのお祝いから始まりました…。



暁明女子高での交流会:イースターのお祝いを、全校生徒と共に参加させて頂いたり、学校見学や、探究についてのディスカッションと、想像以上に学びと気づきの多い充実した時間を過ごす事ができ、忘れられない思い出となりました。私たちの7つの探究班と同じ課題を事前に学習していた上に、班によってはPPTまで作成しながら『自分はこの問題に対し、この様に考えている』と意見をしっかり伝えてくれました。暁明女子高の皆さんは、英語力が高く、初対面でも積極的に話しかけてくれます。その姿に、自分の英語力の低さ、すぐに言葉に出せない悔しさ、あんなに日本では積極的に発言・発表していたのに…。恥づかしさも、悔しさも、そして暁明高校のみなさんの優しさや強さも、すべてを忘れず、この大切な時間に感謝しながら、今後の活動をしっかり頑張ろう!と決意しました。Kさん



3/29 (火)	終日： 台中市内	7：20 学生食堂にて朝食
		8：10～11：00 Servant Leader との懇談会 11：10～12：30 班別打ち合わせ・データ分析、昼食弁当+お茶 12：30～17：30 班別探究活動 17：30～18：30 夕食（班毎） 19：30～21：00 班別討論・打ち合わせ 東海大学OB 会館泊



Servant Leader との懇談会では、東海大学に音楽課程を創設した東海大学名誉教授である羅芳華博士のお話を聴きました。博士は1965年、一人でアメリカから台湾の東海大学においでになり、音楽課程設立の構想を、多くの困難を乗り越えながら実現されてきました。その活動に対して台湾の文科省である教育部も、そして政府も傑出教師賞を授与し、2001年に終身中興文藝賞も受賞されています。生徒たちは先生のお話に聴き入り、多くの質問に答えていただくことで、サーバント・リーダーとしての在り方を学びました。最後に生徒たちは、出会えた感謝の気持ちも込めて合唱『虹』をプレゼント。先生はこの合唱曲を大変気に入られ、後ほど、譜面をお届けしました。（台中への移動バスの中で、眠いのをこらえながら練習して良かったね(^^)）



音楽の楽しさ、そして教師と言う職業について、丁寧に分かり易い英語で笑顔で語られた羅芳華先生。音楽に限らず、一つの事に一生懸命努力する姿勢やその重要性、教育者として生徒たちに伝える熱意に感銘しました。また最後に披露した私たちの合唱にアドバイスとお褒めの言葉をいただき、大きな自信となりました。先生からのアドバイスと台湾研修でさらに深まった私たちの絆を活かして、今年の合唱コンクールも頑張りたいです。Iさん

台湾に来て探究活動を実践するにあたり、やはり問題は言語の壁。何もかも初めての土地で、いかに充実した探究活動を実践できるか…。そんな時、一番の力になってくれたのが先輩。まさに身近なサーバント・リーダー達です。仙台白百合学園高等学校では、震災後2012年9月から、毎年、台湾の大学への進学者がおり、現在、大学1年生から4年生まで25名が台湾で学んでいます。

朝の7時から夜の10時過ぎまで私たちの探求に付き合ってくれた先輩たち。中には小学校の頃から知っている先輩もいました。当時から雲の上の存在だった先輩が、英語・中国語・日本語と巧みに使い分けていて感銘を受けました。私も先輩の様にグローバルな人材になり、社会に貢献したいと思いました。また日本ならではのジェンダー意識に惑わされること無く、女性だからこそ出来るリーダーシップを先輩の様に発揮したいと思いました。Sさん



～東海大学での班別探究活動について、班長の活動報告～

1班	テーマ：ネパールに女子校設立をめざして
メンター	DODOさん(華人磐石領袖協会)
<p>ネパールで2014年4月から2015年3月までの一年間、女性や子どものためにたくさんのお話を聞いてきたDODOさん。彼女の実体験は、どんな資料よりもリアルであり、ネパールの女性の現在の状況がとてもよくわかるお話でした。彼女のお話から、支援の在り方、協力の仕方、バイタリティと周囲を照らす暖かな笑顔を学び、自分たちの探究活動も、机上の空論ではなく、実際に運用できるところまで、そして、それを活用した人々がその後どう変わったか、ということまで見届ける必要がある、と感じました。</p> <p>また探究する上での視点の大切さを痛感しました。暁明女子高校生の視点も、大学生たちの視点も、日本では想像できない鋭さと説得力にあふれていました。</p>	



2班	テーマ：災害時における弱者への援助体制について
メンター	東海大学社会福祉学系 陳琇恵准教授
<p>台湾で発生した921地震。まずはこの災害における弱者の支援体制を学ぶところから始まった探究は、災害の分析や救援の様子、それに関わる方々の視点の持ち方で、結論が一つではなく、多方面に渡るということを知りました。また、災害の在り方の違いは多くの見解をもたらしますし、だからこそ、考え続け、提案し続ける事が大切であるということも学びました。私たちが日本で作成した災害時のパンフレットを、東海大学に在籍する留学生の方たちも一緒に見てくれて、日本にはなかった新たな視点を盛り込むことが出来たと思います。更に、東北大学の今村教授から託された義援金もお渡しすることができました。日台友好の懸け橋としてこれからも探究を頑張ります。</p>	



3班	テーマ：企業の海外進出における言語教育の問題点
訪問先	久順銘茶 台湾総公司 彭威智氏
<p>久順の茶農園で、茶摘みとその後の行程作業を詳しく学びました。今まで自分たちが販売させて頂いていた『金木犀の紅茶』の原点を、自分の目で確認し経験することで、商品に対する愛着と責任が一層湧くようになったと感じます。また、経営においてマーケティング戦略の立案・実行プロセスの1つである4P(製品・価格・流通・プロモーション)が大切であること。その中で、久順さんにしかない特徴を大切にしていること。自社製品の流通では、販売現地に直接赴くことで販路を拡大してきたこと等を学びました。一回一回の出会いの大切さ、相手の気持ちをくみ取る力が何より求められているということ、今後の探究活動に活かしたいと考えます。</p>	



4班	テーマ：つなげよう飢餓と飽食の国々を
メンター	東海大学食品科学系 王良原助教
<p>暁明女子高校の高校生や、東海大学の学生たちに飢餓と飽食に関する意識調査を行いました。また、台湾であっても生活の身近なところから現状を知るために、コンビニエンスストアやスーパーマーケットを訪問し、アンケート調査やインタビューを実施し、日本では得られなかった動向をデータとして得ることができました。また王先生との対談を通し、今まで気づきもしなかった考え方や現象の捉え方の視点を沢山学び、とても充実した活動ができたと感じています。この情報を、今後の活動にどう活かすか、班員とディスカッションを十分に重ねていきたいです。</p>	



5班	テーマ：医療・社会福祉の視点から日本の高齢社会について考える
訪問先	弘道老人福利基金会
<p>私たちは、弘道福利基金会の運営している施設を訪問し、活動を一緒に体験させてもらいました。この組織は台湾各地で施設を運営しているほか、外出が困難な老人等の自宅を訪問し介護を行っています。施設では特に認知症予防のための、脳に刺激を与える運動を実践していて、私達も実際に体験させて頂きました。この様な視点での活動は、日本でも必要であると感じます。また、高齢者の介護についてインタビューを行い、若い人々の関心が低い事が問題である、と知りました。これは世界的な問題なのでは…と、実感しました。今回の活動を通して、いかに若い人々の理解や興味を高めながら、高齢社会の問題における解決策を探るのか…じっくり考察します。</p>	



6 班	テーマ：歴史認識を乗り越え、良好な関係を築くためには？
メンター	東海大学日本語文化学系 黄 淑燕 准教授、 東海大学日本語文化学系 古川ちかし助教授
<p>これまでの探究活動から仮定した日中韓台の4か国の関係性の背景や、班としての見解について、先生方と討論会を実施させて頂きました。私たちが定義した『良好な関係』が、見解の相違と多くの知見から、一言では表せないと思えたことで、このテーマの真の意味を深く考察することが出来たように思います。また、今まで着目していなかった台湾と韓国間の関係性も大変興味深い事や、日本の親中派の存在も留意しなければならない事、日本にも台湾にも大勢の親米派がいる事など、新たな切り口から4国間の歴史を紐解くヒントを沢山学ぶことができました。台湾で得たこの多くの学びを手掛かりに、更に探究を振り下げ、『良好な関係』を築く手段を明確に提示できる様にしたいと思います。</p>	



7 班	テーマ：バナナから見るフィリピンの経済格差
メンター	東海大学食品科学系 王良原助教授
<p>王先生から台湾の食品やフルーツの貿易について、楓康スーパーマーケット(feng kang supermarket)でお話を伺いました。先生はまず台湾のスーパーマーケットの見学をさせて下さり、生鮮食品の安全性を伝える仕組みや工夫などを教えて下さいました。また台湾バナナの試食や私たちの活動について様々なアドバイスを下さいました。その中で『販売時の市場の確保』と『どれだけ生産者の方々に利益が多くなる正味で売ることができるか』というのが、これからの私たちの活動における明確な課題であることが分かりました。今後私たちは4月末に生協の方にお話を伺い、上記の課題をしっかりと見つめながら、フィリピンのバナナ生産者のことを一番に考える姿勢で活動できるよう頑張りたいと思います。</p>	



3/30 (水)	終日： 台中市内	7：20 学生食堂にて朝食 8：10～12：00 班別討論・presentation 準備、12：10 学生会館にて昼食 13：30～17：00 成果発表会(英語)、17：00～17：30 閉会式 18：00～21：00 台中市内にて夕食 東海大学 OB 会館泊
-------------	-------------	---



班別研修の中での大きな活動も終了し、いよいよ午後成果発表に向けてラストスパート。データを分析し、PPTの原稿を作成。発表原稿の推敲を行い、ここまで常に一緒に行動を共にして下さった先輩たちに見守られて、最後のディスカッションを行いました。協力して下さいました方々への感謝の思いも加わり、最終発表を是非成功させようという熱意が高まっていました。台湾に来て一番の試練の時。先輩たちの差し入れは、なにより嬉しかったですね！国内との探究といかに結び付けるか、各班独自の切り口と視点で考察を深め発表の準備に大忙しでした。

いよいよ成果発表会。台湾で学んだことを中心にPPTから原稿まで、台湾に居る間に英語で作成しました。苦勞もありましたが、先輩たちが夜遅くまで発表準備に付き合ってくれ、私たちに諦めない気持ちと多くのアドバイスを与えてくれました。その甲斐あって、全部の班がしっかりと無事に成果発表を迎えることができ、当日、会場には副学長先生をはじめ、メンターの先生方ももちろん先輩たちまで来て下さりました。前日までの疲れも発表の緊張感で吹き飛び、各班、しっかりと発表できたと思います。発表の中には、台湾でのアンケートの結果分析を盛り込んだ班もありました。台湾研修最後の成果発表会を通して、大きな達成感を得ることが出来、精神的にも身体的にも成長することができたと思います。この大きな経験を次の探究活動や発表に、必ず活かしていきたいです。Hさん



◎最終日の成果発表会では、東海大学の副学長先生を始め、探究活動にご尽力下さった先生方や、最後まで生徒と共に活動してくれた卒業生や大学生たちが皆さん参加。各班の英語によるPPTやプレゼンテーションを真剣に聞いて下さり、あたたかな講評を下さいました。また、今回の高校生の探究活動に大いに共感下さった東海大学の先生方からは、是非今後もこの活動を東海大学で実施しましょう！とお言葉をいただけてまいりました。後輩の皆さん頑張りましょうね！

3/31 (木)	午前：	8：30 学生食堂にて朝食
	台中市内 バス移動	9：00 台中→台北市内へバス移動
	午後：	11：30頃 レストランにて昼食
	台北・仙台	14：45 台北桃園空港 → 18：55 仙台空港 BR118 便



異国の地で過ごした一週間は、どれもが刺激的で、帰国した今でも思い出が鮮やかによみがえります。故宮博物院での『お宝探究』では、神秘的な作品に心を奪われました。社会人になって、もう一度訪れ、今とは違う観点から鑑賞してみたいと思います。また、台中の東海大学で実施した、各班の探究活動では、メンターの先生のご指導により、日本では得られなかった新たな知見と視点を獲得することが出来、日に日に探究が深まるのを感じました。学生にアンケートを実施したり、直接施設や現場を訪問させて頂いたり、海外で十分に貴重な体験をさせて頂くと同時に、多くの意見や考えを知ることができ、深まるディスカッションの中で、探究活動の醍醐味を味わうことが出来たと感じています。私は今、テーマとしている課題の解決策が見えてきたら、もう一度台湾に行って、その後の結果や考察を報告したいと思います。探究活動の最中も、先輩や大学生たちが常に私たちが最高の探究活動が出来る様、サポートをして下さったこと、あらためて白百合の生徒で良かったと心から感謝しています。Mさん

クラスのほとんどが初の海外。期待と不安で一杯で、飛行機の遅延という予想外の出来事もあったけど、無事に台湾に着くことができた。たくさんの方々のお話を聞いたり、様々な場所を見学したりと、それだけでも良い経験させて頂いたのだが、今回の旅行の大きな特徴として『班ごとのテーマで、それぞれ異なる場所で探究』を行った事で、皆、多種多様に『何か』を得てきたようである。私の班は、歴史認識についての探究を行い、班別探究では二二八記念館を訪問。館の方々以案内して下さい、歴史・知識を深めることができた。他にも、日本が統治していた頃の建造物を実際に見たりしたが、やはり思うことは、まずはちゃんと自分の目で見る事が大切だということである。いくら本やネットで調べた資料でも、あくまでそれはそれを記した人の主観がある程度入ってしまうのは否めない。真実を知るには、特に歴史問題であるならなおさらだと思うが、自ら現地へ赴き、現地の方々のお話を聞くことが一番の近道の様に思った。7日間の研修旅行で感じたことは、日本という小さな島国の中にだけ閉じこもっているだけではダメだということだ。日本の学生も勉強している方だと思っていたが、同学年である暁明女子高校の生徒さんとの交流会では、中国語と英語が飛び交い、英語は母国語ではないという状況が私達と同じであるはずなのに、まるで母国語の様に使用している姿を間近で見た。どれだけ勉強してきたのだろうと驚くと共に、まだ世界の一部しか見ていないのだ、と世界の広さをも痛感した瞬間であった。日本から台湾に留学している先輩の方々には、日本語、英語、中国語の3か国語を当たり前に使っていた。自分も現状に満足せず、頑張れば将来自分の役に立つ能力を得られるのだと思うと、今後の学生生活へのやる気が湧きあがってきた。日本という枠にとらわれず、世界に進出することもできるのだという新たな選択肢を手に入れることが出来、私たち一人一人の未来の選択が広がった。先輩方に続いて、台湾に留学して世界で活躍する人が、この台湾研修旅行をきっかけに私たちのクラスから出てくることだろう。Nさん



◎生徒達の台湾での一つの成果となった修了式での発表用 PPT 原稿です。

【第7班: バナナから見るフィリピンの経済格差】

The Economic Disparities in Philippine from the viewpoint of banana trade

Member
Sakura Sano, Hikari Horie, Kanon Endo, Michika Sato

1

OVERVIEW

- ▶ Our Activity before coming to Taiwan
- ▶ Our Activity in Taipei "The economic disparity in Taiwan"
- ▶ Our Activity in Tai Chung
 - "Taiwanese bananas and agriculture of Taiwan"
- ▶ Conclusion

2

Our Activity before we coming to Taiwan

Philippine Banana Plantation

Company in the United States makes many campesinos use more than five kinds of pesticides

↓

Campesinos are suffering from serious disease

Spraying Pesticides



3

Our Activity before we coming to Taiwan

Alter Trade Japan

ATJ cooperates with the consumer's cooperative society and promote the import of Balangon bananas to Japan

Balangon bananas

- Wild bananas
- Not use pesticides

➔

Campesinos and Consumers are safe

4

Theme of Taiwan Activity

"Learn about Taiwan's wage difference and how to solve it"

The Motives

- ◆ We found Taiwan is similar to Philippine.
- ◆ We can compare Taiwan and Philippine.

↓

We can find difference points and common points.

5

Our Activity in Taipei

When Taiwan was ruled by Japan, there was the economic disparity.

↓

• But after the end of the war, Taiwan became independent.

• Taiwanese got jobs and the economic disparity was not arose

↓

And now, economic disparity is being



We talked about the economic disparity of Taiwan with Ms.Chen on March 26th

6

Our Activity in Tai Chung

Taiwanese bananas and agriculture of Taiwan

When Taiwan was ruled by Japan, the farmer of Taiwan made the consumers' cooperative society.

↓

The farmer's income increased and stabilized economically.

↓

Now industry of banana decline



Feng Kang Supermarket
Taken with Mr.Wang

7

Our Activity in Tai Chung

Mr. Wang's Advice

"Using a market is the most important for our activity."

"If processed foods increase, the farmers were confused."

↓

Taiwan banana is as same as OUR HAND!!



8

Conclusion

Ms.Chen's talking

➔ We could learn about the economic disparity in Taiwan and reform measures to improve it.

Mr.Wang's talking

➔ We could learn about the situation of the supermarket in Taiwan and reality of Taiwan bananas.

9

Our Plan after returning to Japan

Selling Balangon bananas with a consumer's cooperative ➔ Support banana campesinos

Devising the recipe of sweets using Balangon bananas ➔ Tell many people Balangon bananas

➔ Improvement of the economic disparity

10

◎本校のSGHの活動はHPでもご覧になれます。
<http://www.sendaishirayuri.net/>



企画制作：SGH委員会

仙台白百合学園高等学校
〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山1-2-1
TEL.022-777-5777 FAX.022-777-3555